

2011年6月11日

広吉 祐子  
チャイルド国 ペルー

## 第16回 プラン東京の会 お集まり報告

小雨が降る中、文京区不忍通りふれあい館にてプラン東京の会が開催されました。この度の東日本大震災では、さまざまな国からご支援頂いたことが本当にありがたく身に沁み、改めて国際協力の意味を考えておりました。支援は一方的なものではなく、いろいろな形で巡り来るものと実感しております。

この第16回の会では、エチオピア駐日特命全権大使である **Markos Tekle Rike** 様をお迎えしました。エチオピアとプランとのかかわりのおかげで、このような機会に拝せましたことを感謝しています。大使が暮らしていらした地方にプランのプロジェクトがあり、そこを訪問されたお話などを拝聴しました。子供たちの生活環境の改善などにお役に立てていること、地域に根付いている様子を伺い嬉しく思いました。



鶴見専務理事のスピーチで、エチオピアの地理や人口などの基本情報、プランの支援状況について伺いました。

エチオピア協会理事であり モカ・エチオピア・ダンスグループ代表の山本純子様からご紹介

頂いたエチオピア文化は、私にとってこれまで知らなかったことばかりで、その国に対する興味や関心が湧いてきました。エチオピアに対する私の乏しいイメージは、コーヒーの産地で陸上競技に強いといった程度でした。1年が13カ月と独特な暦を持っていること、80余りもの民族が暮らし多様な言語や文化がある等、とてもユニークな国と知り得たことは喜びでした。



また民族舞踊のご披露があり、衣装の鮮やかな色彩と太古的なメロディー、生命の躍動といえるその動きは魅力的でした。エチオピアの大地でこの踊りを見れば、より一層そう感じることでしょう。各民族によってダンスの型は異なるそうですが、いずれも音楽に合わせて体を動かすことが楽しい、という気持ちは共通しているようです。そのためか皆で踊っているうちワクワクするような、気分の高揚が味わえました。そして一緒に踊ることで、初対面の方とも一体感が持てました。大使も心楽しく踊りに参加されました。



懇親会では支援者の方々と世代を超えてお話できました。チャイルド国について熱く語られる様子に、私は鼓舞させられました。またエチオピアを訪問された方の写真を拝見し、現地の方たちがテントで暮らされている様子や、HIV で母を亡くして祖母に育てられている子供の姿など、まだまだ厳しい状況を垣間見ました。



この会に参加したことで、支援とは物やお金を送ることだけではなく、その国をより深く知るきっかけになり、チャイルドを通して愛着が湧くなど素敵な面がたくさんあることを実感しました。そうした繋がりが、困った時はお互い様と助け合える、より寛容な世界への礎になると思えました。貴重な経験をさせて頂き感謝しております。今後どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

